

平成29年度進路だより就職編 第5号

種子島高校進路指導部 就職指導係 徳永丈知

1 分け与える

「今年の福男はだれか。」毎年、その結果はテレビで放映されます。正直に言って、だれが福を手にしようと構わない訳ですが、今年の福男のインタビューを聞いて、心が洗われるような爽やかな気持ちになりました。

1月10日午前6時、えびす宮の総本社にあたる西宮神社（西宮市社家町）では、約5000人の人垣ができています。表大門から230メートル先の本殿への一番乗りを目指し、我先にゴールを目指す人々の意気込みに、こちらまでも緊張してしまいます。全長230メートルと言え、それほど長い距離ではなく、全力で走り切れば、だれでも福男になれるのではないかと考えてしまいます。もし、私がこの神社の近くに住んでいたとしたら、私も挑戦しているかもしれません。ちなみに女性が一番乗りした場合には、「福女」と呼ばれるそうですが、1940年から始まったこの神事において、現在まで3位以内に入ったことすらないということです。

いよいよ開門。開門と同時に一斉に境内に流れ込みます。まるでダムが開門され、放水された水のように勢いよく走り出します。しかし、本堂まで続く道が石畳のために、足が絡まったり、またスピードを出しすぎてカーブで曲がりきれず転倒する姿が映し出されます。そのような中、先頭が転倒している合間を後ろから来た人が抜き去る姿などを目にするとなんとも微笑ましくなります。

ところで、今年の福男は、地元の高校生3年生でした。みんなと同じ高校生。夢や希望も多感な時期です。そして多くの福を手にいれたい時期だと思えます。一番福を手にして、声高々に自分に福が来ることを語るのだろうと思っていました。しかし、そのコメントは異なっていました。来月に大学受験を控えるその高校生は「福を独り占めせず、周りの人たちにも分け与えられる1年にします。」と笑顔で話していました。

開門前まで参考書を手にして勉強していたということもいかにも高校生らしいところですが、私はその高校生から、忘れかけていた何かを教えてもらったように感じました。同時に私自身、大人として少し心苦しくなりました。もし私が同じ立場だったならば、きっと自分の幸せを考えて、自分のことだけを口にしていたかも知れません。

さて、センター試験を終え、これから2次試験を受験する皆さんもいますが、ほとんどの3年生が進路先が決定しています。現在、次のステップに向けての準備を進めている所だと思います。数か月後に始まる新しい生活に向けての期待も大きいことだと思います。そして、だれもが幸せな生活を送っていきたくて願っていることでしょう。

今回、私がこの記事を書いている理由があります。それは、福を自分で独り占めするのではなく、福を他人に与えられる奉仕の精神と心に余裕があれば、その福は最終的に自分に返ってくるのではないのかということです。あの大学やあの企業に合格したいという欲望はだれでもあります。勿論、試験は競争ですので試験に打ち勝たなくてはなりません。そのような中で、自分だけ合格すればよいという気持ちではなく、一人でも多くの友だちが合格できるように互いに頑張り合うという精神が増えれば、もっと皆で力を発揮できるのではないのかということです。そのことが、最終的に種子島高校の良き伝統として、いつまでも続いていくのだと思います。福を互いに分け与える1年になれるように今年も頑張りましょう。

2 進路希望状況から

3学期になり、第3回目の進路希望調査を実施しました。調査を見ると、就職か進学が決まっている皆さんは多いですが、その先の学校選びや仕事選びがまだできていない人が多いのが現状です。2年生になるとある程度の絞り込みができていますが、それでもまだ自分が何をしたいのか、どうありたいのかを明確にできていません。いずれにしても、早期に目標を立て、計画的に準備を進めていかななくてはなりません。

現在、この世の中で1万7千もの職業があるそうです。その数にびっくりさせられますが、私たちが知っている仕事は、そのごく一部です。そして仕事の数以上に、様々な事業所があります。その中から企業選びをしなくてはなりません。本校には、今年度1300件近くの求人がありました。その企業の中から、自分の希望する事業所を選び出すには、時間がかかります。もし、学校に届いた求人の中で、自分が希望する仕事がない場合には、パソコンを使って、全国の高卒求人を調べることができるようになっています。つまり、情報が沢山ある中で、自分が希望する仕事や求人票を見ることができるのです。希望調査で進路先が未定の理由は、それぞれあるかも知れませんが、もっと進路室に足を運んで情報を得ることが重要です。進路室に足を運ぶ皆さんが、以前に比べると減っていることが非常に気になっています。

現在、就職においては、売り手市場となっており、できればどの企業も採用をしていきたいというのが本音だと思います。だからと言って、企業のことをよく調べずに、簡単に企業を選んでいくと、結果的に、早期離職につながることも予想されます。学校側としては、ともかくどこでも皆さんを就職させようという考えは持っていません。皆さんが、やりがいを持って、自分にあった仕事選びができるような手助けをしているのです。進路について、一人で考え込むよりは、進路室に足を是非運んでください。本校にはキャリアガイダンススタッフの今給黎さんもおおり、皆さんが来るのを心待ちにしています。

3 後輩のためにできること

先日、年末年始で帰ってきた先輩が、後輩に話をしてくれる機会がありました。電気科卒の先輩は、電気科の先生方の声かけに快く応えてくれたそうです。私は、その場にいることはできませんでしたが、あとで状況を聞くと、生徒の皆さんは真剣に話を聴いており、非常にためになったということでした。予定がある中、後輩のために話をしてくれた先輩の行動に感謝したいと思います。そこで、3年生の皆さんにお願いがあります。それは、皆さんも島外に出て、里帰りをする機会があると思います。卒業してから学校に足を運ぶということは、少々面倒なことなのかもしれませんが、是非、後輩に話をしてほしいのです。現状報告でもよいですし、働くようになり感じたことなど、何でもよいので語ってほしいと思っています。皆さんが帰ってくる時期が分かれば直々お願いするのですが、卒業をしてしまうと皆さんの動きが見えないのが現状です。ですので、種子島に帰って来たときには、是非学校に足を運んで話をしてください。来てくれれば、すぐに先輩が話ができる場を設定したいと思います。

種子島は人と人とのつながりが強い島だと私は思っています。だからこそ、後輩を想う気持ちを大切にしたいのです。そして先輩方にはまた堂々と自信をもって生きてほしいのです。このような新しいつながりがこれからも続いていくことを願いたい。

4 風のつぶやき

この時期は、強風で草木が揺れ、その音に目が覚めることが多くなります。草木のうなる音は、春の訪れを知らせるシグナルです。これまでもこれからも、草木は揺れながら生きていきます。そして、その強風に負けるなよと私たちにつぶやいているように感じます。今日もまた新しい風が吹き続いています。

